

還暦になってのダンスへの思い

立教大学 S57年卒 栗田裕司

卒業して38年が経ちました。昭和、平成、そして令和と三つの年号をまたぎ、コモンルームで過ごした青春真っ只中の頃には考えてもいなかった還暦を今年迎えたところです。まあ、歳を重ねるのはあたりまえのことですが、今、また、夢中になって踊っている自分に驚き、周りには当時のメンバーが状況は様々であってもいつも居てくれることに心から感謝しております。

ダンスから遠ざかっていらっしゃる方が多いとは思いますが、この赤れんが倶楽部からの封筒を開けた時に現役時代の気持ちを思い起こし、みんなはどうしているのかなあ？と思いをよせる機会になれば嬉しいなと感じています。

私は数年前に OBOG 戦への出場に声をかけていただき、ダンスを再開いたしました。それまでは映画「シャル ウィ ダンス」から始まり芸能人社交ダンスがテレビを賑わせていた一時の社交ダンスブームも今は下火になっているのではと思っておりましたが、OBOG 戦に出場し今も現役で踊っている先輩や同年代の方々の姿を拝見する事が出来ダンスは生涯を通じて取り組めるスポーツであると実感しました。

その後、一般競技会にも出るようになり昔と比較できないほど年齢層の幅が広がったことを知りました。競技ダンスは年齢には関係なく同じ種目、同じ会場で競いあえ、生涯続けることができる数少ないスポーツだと思います。若い世代のスピード感あふれる踊りはもちろん感動ものですが、シニア層の味のある踊りもとても魅力的なものです。

学生時代にとりあえず4年間で仕上げてしまい、改めて基礎、理論と学ばねばならないことは山のようにありますが、それが面白く奥深いものを求めたくなっている昨今です。

心のどこかで少しでももう一度、踊ってみたいなと思っいらっしゃる方は是非一度、思い切って懐かしい競技会の空気に触れに行ってみてはいかがでしょうか？翌日にはダンスシューズを買ってしまうかもしれませんよ。

まずは OBOG 戦に足を運んでみてください。大学の枠をこえて懐かしい方々との再会が待っているはずです。全日本の名のついた大会はたくさん存在すると思いますが、OBOG 戦だけの大会は他にはないのでと思います。こうした大会を支えている運営委員の方々に頭が下がります。そして、その仲間であられることが誇りです。

せっかく、寄稿の機会をいただきながら拙い投稿しかできず、申し訳ありませんでした。周年行事等で元気な諸先輩方、同期の面々、後輩たちと再会できる日を楽しみにしています。

私事ですが・・・更なるダンス精進！をここに宣言させていただきます。(笑)

追伸：～ 現役時代の私をご存じの方へ ～

栗田はなんとスタンダードも頑張っております。